

食育キャラクター「食まるファイブ」活用した教材開発と指導法に関する研究

家政教育講座 加藤祥子

I. はじめに

本研究の目的の1つは、1枚の布をフルに活用して練習から作品製作まで行える縫製教材を開発することである。それによって、材料の購入、計画、準備など製作の前段階で時間を削られることなく縫製製作そのものに時間がかけられ、作業の無駄を省き、効率的な被服製作技能の習得を可能にする。また、前作で習得した技術を次の作品で発展させたり定着させたりすることを意識し、系統的・段階的に技術を習得できる縫製教材の開発を行う。授業時数不足と、児童の生活経験の乏しさによる手指の巧緻性低下が叫ばれる現状で、児童が製作物を完成させる達成感、上達したと感じる満足感、作ったものが役に立つという有用感を感じさせることができる。

II. 研究方法

縫製技術の内容と習得順序を考慮し、基礎的・基本的な技術の確実な習得を図ることができる練習布と、練習布で習得した技術を全て活用できる縫製作品を目指した。一枚の布に段階的作品を配置するために、新学習指導要領下の小学校家庭科の教科書から被服教材を取り上げて分類した上で、小学校で習得すべき技術を網羅できるよう、ランチョンマット(2種)・手提げかばん・ナップサック・巾着・幼児用エプロン・ポケットティッシュカバーという計7作品を縫製教材に取り入れることとした。作図はイラストレーターで行った。指示やデザインは教師の指導・評価の簡易化も考慮し、完成度の高い仕上がりになるように縫製方法や指示の印刷を工夫することで、児童らの達成感や満足感を得られる。指示や手順の説明、柄合わせにも『食まるファイブ』を用い、留意すべき内容を明確にすることで、裁縫経験の少ない教師でも指導と評価がしやすく、児童にとっては『食まるファイブ』が語りかけることで興味をもてる教材を目指した。

オールインワン縫製教材の実用化に向けて、本学家庭選修・専攻の一年生50名を被験者として、練習布と縫製作品を製作、製作後に指示の分かりやすさや練習量の適切さ、各段階の作りやすさや仕上がり具合、作品の実用性、製作時間に関するアンケート調査を実施した。製作実験とアンケート調査から、縫い目の割り方や、角出しが甘い作品、返し口を閉じる際縫いが綺麗ではない作品が多数見られた。さらに、愛知県内の現役の小学校、中学校の家庭科の先生方

にも検討してもらった。先生方の意見から、「授業で必ず扱い子どもたちが使用できるもの」、「作品同士に関連をもたせ使用目的が明確なもの」、「全員お揃いでも児童の製作意欲を損なわないもの」、という3観点を重視して、教材の内容を選定する必要があるとわかった。

オールインワン縫製教材第二版では歪みにくい平織りのGポプリンを使用し、収める作品は巾着・三つ折り、ランチョンマット・児童用エプロンの3つとした。「給食や調理実習の時間で使用する目的があり、『食まるファイブ』を活用する意義が高まること」、「学校内で使用する物であり、全員お揃いでも作品の有用性を損なわないこと」、「巾着のサイズを第一版より大きくし、ランチョンマットとエプロンを収納できること」の3点から、オールインワン縫製教材の利点を活かした作品内容になった。製作実験とアンケート調査によって判明した、縫製教材に印刷した指示の不備や被験者が躓きやすい部分に対しては、より確実に技術の習得ができるようにさらなる指示や説明の充実を図った。手縫いの練習布については、指示や説明の不備を改善するとともに、形式を大きく変えた。練習項目ごとに順次山折りにすることで、布を持ちやすく、かつ、布全体を有効に活用することができるよう工夫をした。

完成した第二版オールインワン縫製教材を資料1に示す。

Ⅲ. 結果と考察

現在多くの小学校にて、利用されているナップサックやエプロンの教材の単価は1000円から1500円であることから、練習布を含めて、2年間で約3000円の教材費が必要である。単価1600円のオールインワン縫製教材は、2年間を通して計画的に使用でき、教材費が安価でかつ徴収を一度に済ませることができる。

第二版オールインワン縫製教材で、少人数の小学生を対象に製作実験を行ったところ、手縫いの練習布は、項目ごとに順次山折りにすることで、布を持ちやすく縫いやすいという結果が得られた。練習布と作品を同一の布にプリントし、練習布にもミシンの際縫いの練習を取り入れたことで、小学生でも完成度の高い作品に仕上がりに、児童の満足感や有用感を高められたと考えられる。

本研究に活用されている「食まるファイブ」とは、食事バランスガイドのコマにちなんで誕生した食育キャラクターである。昨年度は愛知県下90校において劇を実施し、食育普及活動を行っている。キャラクターに関心を持つことで嫌いなものが食べられるようになり、給食の残食率を低くするなど各校の先生に高い評価を得ている。また、刈谷市や知立市の食育推進計画のキャラクターになるなど周辺の地域社会にも認められてきている。小学生が親しみやすいキャラクターを活用することで、被服実習においても関心・意欲・態度を高める効果が期待できる。

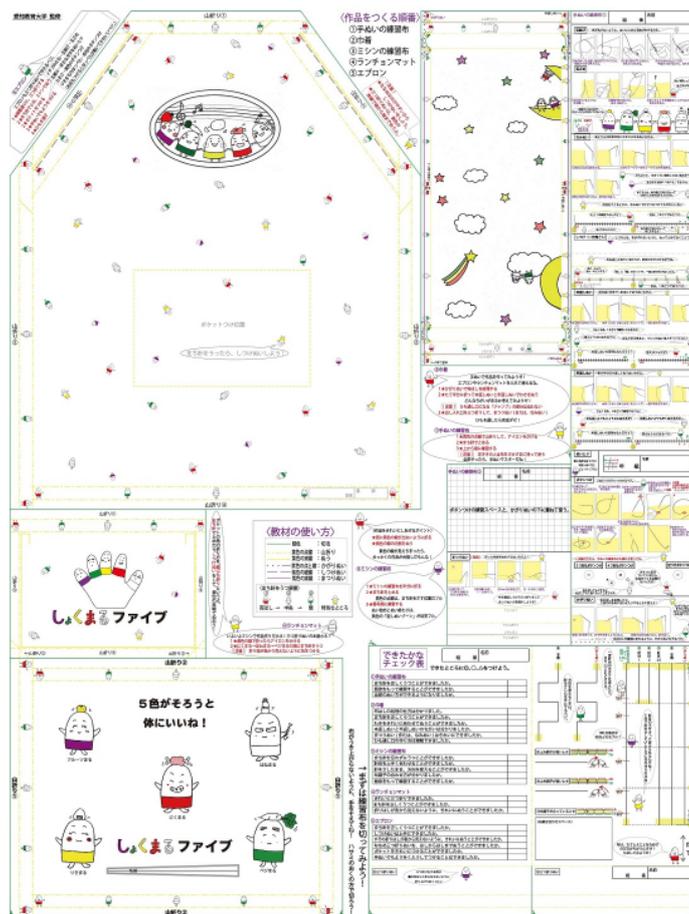
Ⅳ. 今後の予定

現在豊田市立花山小学校に 22 セットを販売し、5 月 18 日に同小学校にて五年生を対象とした製作実験を行う予定である。また蒲郡市立大塚小学校には 63 セットを販売した。現在刈谷市、安城市の小学校で導入検討中である。

2012年度は多数校で研究協力を得られる予定である。購入したミシンを持ち込み、ミシンによる出来不出来が出ないように実験する。学生を導引して縫製指導の機械としたい。事前の準備や実習中の計画、実習後の片付け指導に卓上掃除機を使うなど、小学生にふれる機会を増やす。指導を行いながら、教師用指導書の検討など、今度の教育を充実させる活動を目指す。

2012年6月30日、7月1日に開催される家庭科教育学会にて発表すべく準備している。

2012年の春より、中学校の体育の授業でヒップホップダンスが必修になる。その先駆けとして、食まる体操や、それをヒップホップ調に作曲、編曲したのも完成し、最終調整に入っている。



資料1 第二版オールインワン縫製教材